

Windows 講座

2023年2月21日
パソコンを使いこなす会

【第22回分科会のテーマ：－パソコンのカスタマイズ－】

今回は、Windows10、Windows11 の Explore 関係の操作性を改善するカスタマイズについて勉強します。具体的には、タスクバー、通知領域、スタートメニューを対象にします。

このテキストで扱っている操作は、各文末に記載のサイトから持ってきました。カスタマイズのやり方はその著者の提案です。これを参考にしてご自分が使いやすいようにカスタマイズしてください。

これらのサイトの記事は Windows10 を対象に記載されています。同様のテーマで Windows11では異なる操作が必要なところは、**《Windows11》として茶色で記載しています。**

テキスト中の図の説明文は、*斜体*で記載しました。

1. タスクバーには必要なアイコンだけ
2. 通知領域のアイコンを整理
3. 「ピン留め」でアプリを即起動
4. ショートカットを作ってピン留め
5. スタートメニューのタイルを整理
6. 「個人用設定」からカスタマイズ
7. アイコンのドラッグ・アンド・ドロップでショートカットの追加

【具体的内容：－パソコンのカスタマイズ－】

1. タスクバーには必要なアイコンだけ

ウィンドウズ10の「タスクバー」には、「スタート」ボタンの隣に特殊な機能呼び出すボタン類が3つ表示されている(図1)。パソコン内のファイルやウェブの検索をするための入力欄である「検索ボックス」、アシスタント機能「コルタナ」の呼び出しボタン、ウインドウの切り替えなどを行う「タスクビュー」の呼び出しボタンだ。

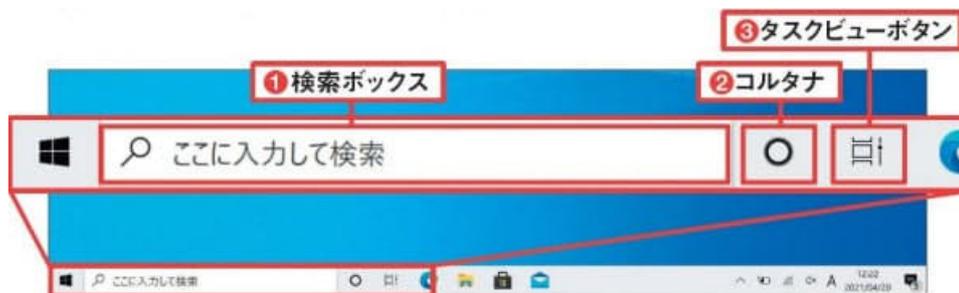


図1 タスクバーの左側、「スタート」ボタンの隣に並ぶ「検索ボックス」(1)、「コルタナ」(2)、「タスクビューボタン」(3)の3つは、不要なものを消すことでタスクバーの空きスペースを広げることができる

しかし、これらは役立つ場面が少ない。不要なものはタスクバーから取り除ける(図 2)。「検索ボックス」をボタン表示にするだけで、タスクバーの空きスペースが大きく広がる(図 3)。

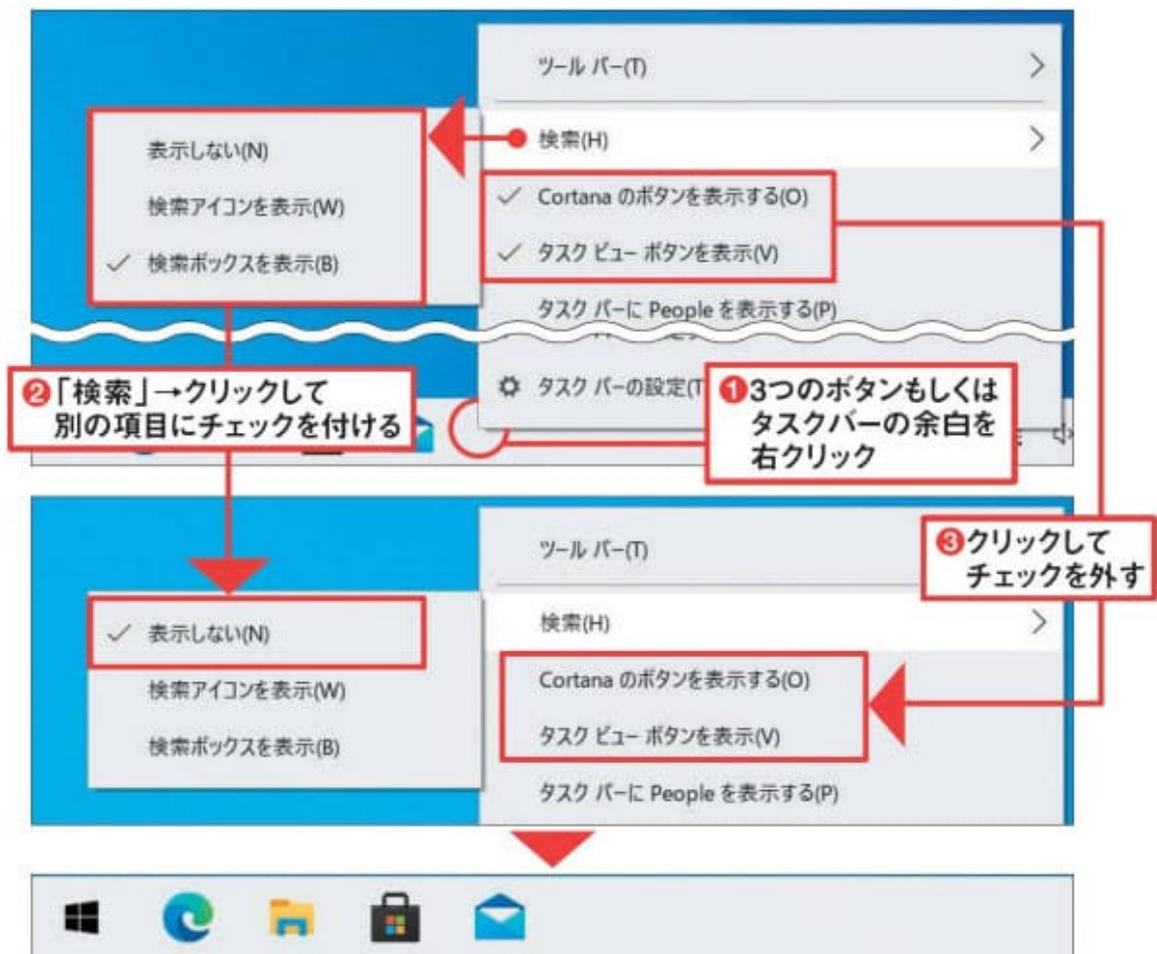


図 2 3つのボタンか、タスクバーの余白部分を右クリックしてメニューを開き(1)、「検索ボックス」の表示はサブメニューで設定(2)。ほかの2種は「...表示(する)」のチェックを外す(3)。これで表示がスッキリする

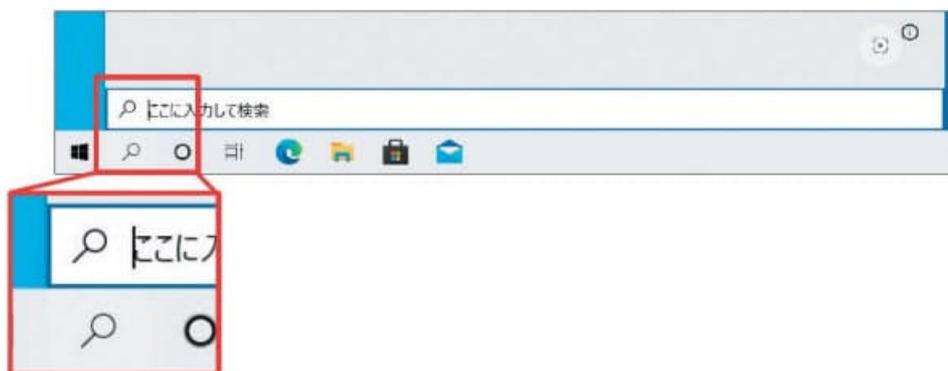


図 3 図 2(2)で「検索アイコンを表示」を選んだ場合、「検索ボックス」がボタンのみの表示になる。検索する際は、ボタンをクリックすると上部に検索ボックスが表示される。この設定だけでも、タスクバーの空きスペースがかなり広がる

《Windows11》

- ① タスクバーの余白部分を右クリックしてメニューを開き「タスクバーの設定」をクリックする。
- ② 「設定」の「個人用設定」の「タスクバー」が開くので「タスクバー項目」を設定する。



2. 通知領域のアイコンを整理

タスクバー右側の通知領域には、「電源」「ネットワーク」「音量」など、ウィンドウズの動作状況を示す「システムアイコン」が並ぶ。その左の「^」ボタンをクリックすると、常駐アプリやドライバーなど隠れていたアイコンが表示される(図4)。

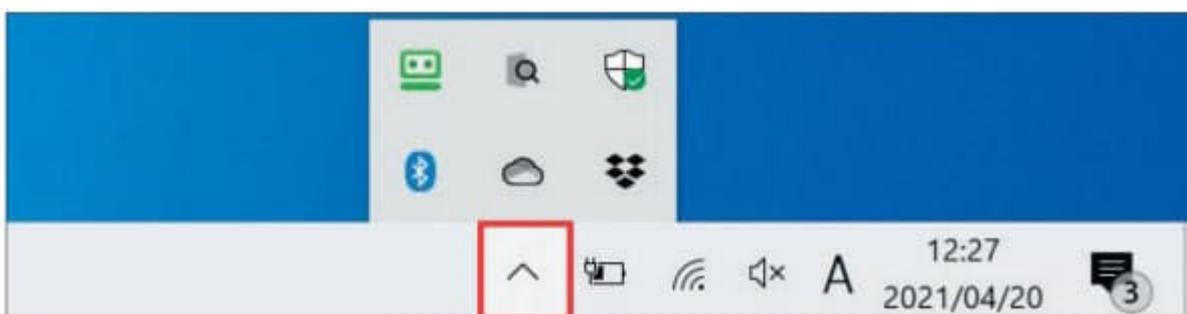


図4 タスクバー右側の「通知領域」には、常駐アプリなどのアイコンが隠れており、「^」をクリックすると上部に並んで表示される。設定を変更することで、必要なアイコンを常時表示させることが可能だ

これらのアイコンは、設定画面で表示のオン/オフを切り替えることが可能(図5、図6)。システムアイコンは、「時計」(日時表示)や「入力インジケータ」(文字入力モードの表示)、「アクションセンター」などを含めて非表示にできる(図7)。

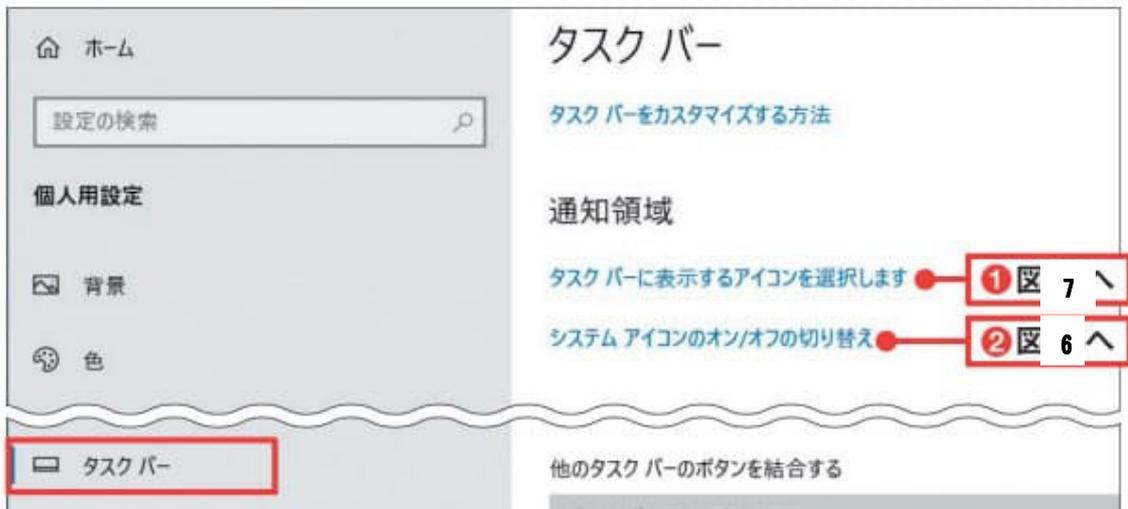


図5 「タスクバー」の設定画面を開き、「通知領域」の部分にある項目を選ぶ。アイコンを隠すかどうかの設定は(1)、システムアイコン専用の表示設定は(2)を選ぶ

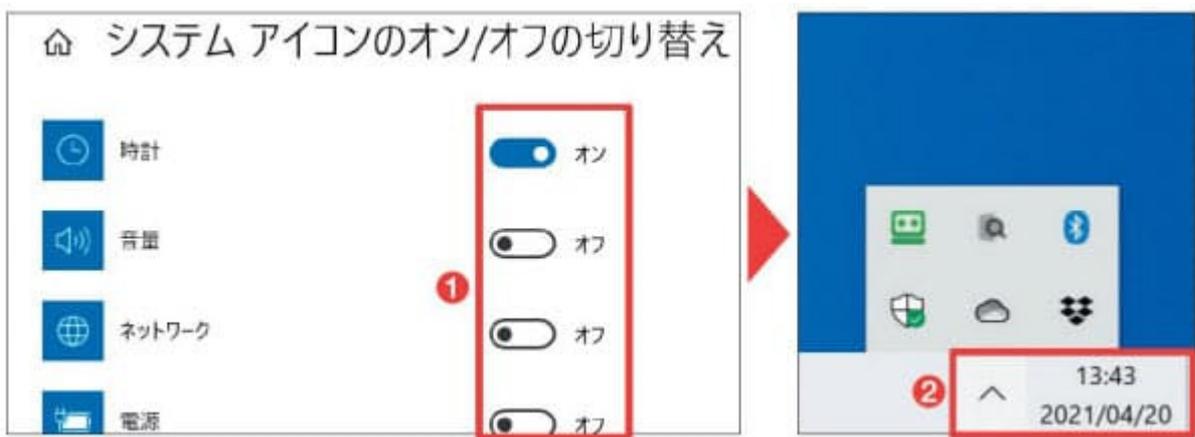


図6 最上段のスイッチを「オン」にすると(1)、すべてのアイコンが隠れず表示される。通常は、出しておきたいアプリを選んでオン/オフを切り替えよう(2)。「音量」などのシステムアイコンを隠すこともできる(3)



図 7 「システムアイコンのオン/オフの切り替え」画面では、システムアイコンを隠すのではなく、消してしまう設定ができる(1)。「時計」(日時)だけ表示するといった極端な設定も可能だ(2)

[Windows 10 タスクバー 設定・操作はここがポイント | NIKKEI STYLE](#)

《Windows11》

- ① タスクバーの余白部分を右クリックしてメニューを開き「タスクバーの設定」をクリックする。
- ② 「設定」の「個人用設定」の「タスクバー」が開くので「その他のシステムトレイアイコン」をクリックする。
- ③ 必要なアプリアイコンを「On」にして、その他を「Off」にする

個人用設定 > タスクバー

ソフトウェアキーボード
タッチ キーボード アイコンを表示 キーボードが接続されていない場合 ▾

仮想タッチパッド
仮想タッチパッド アイコンを常に表示する オフ

その他のシステムトレイアイコン
追加のシステムトレイアイコンを表示、または非表示にします ^

非表示のアイコンメニュー オフになっているアイコンは、このメニューでアクセスできます	オン <input checked="" type="checkbox"/>
タスク マネージャー	オン <input checked="" type="checkbox"/>
Windows Update の状態	オン <input checked="" type="checkbox"/>
ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す	オン <input checked="" type="checkbox"/>
Kaspersky Secure Connection	オフ <input type="checkbox"/>
Kaspersky Password Manager	オフ <input type="checkbox"/>
Logitech SetPoint Event Manager (UN: JP)	オフ <input type="checkbox"/>

3. 「ピン留め」でアプリを即起動

タスクバーの空きスペースには、よく使うアプリのアイコンを置いて、ワンクリックで起動できるようにしておくのが便利だ。これを、タスクバーへの「ピン留め」と呼ぶ(図 8)。

同じ操作で「ピン留めを外す」を選べば、アイコンの配置を解除できる。なお、タスクバーのアイコンはドラッグして並べ替えることも可能だ。

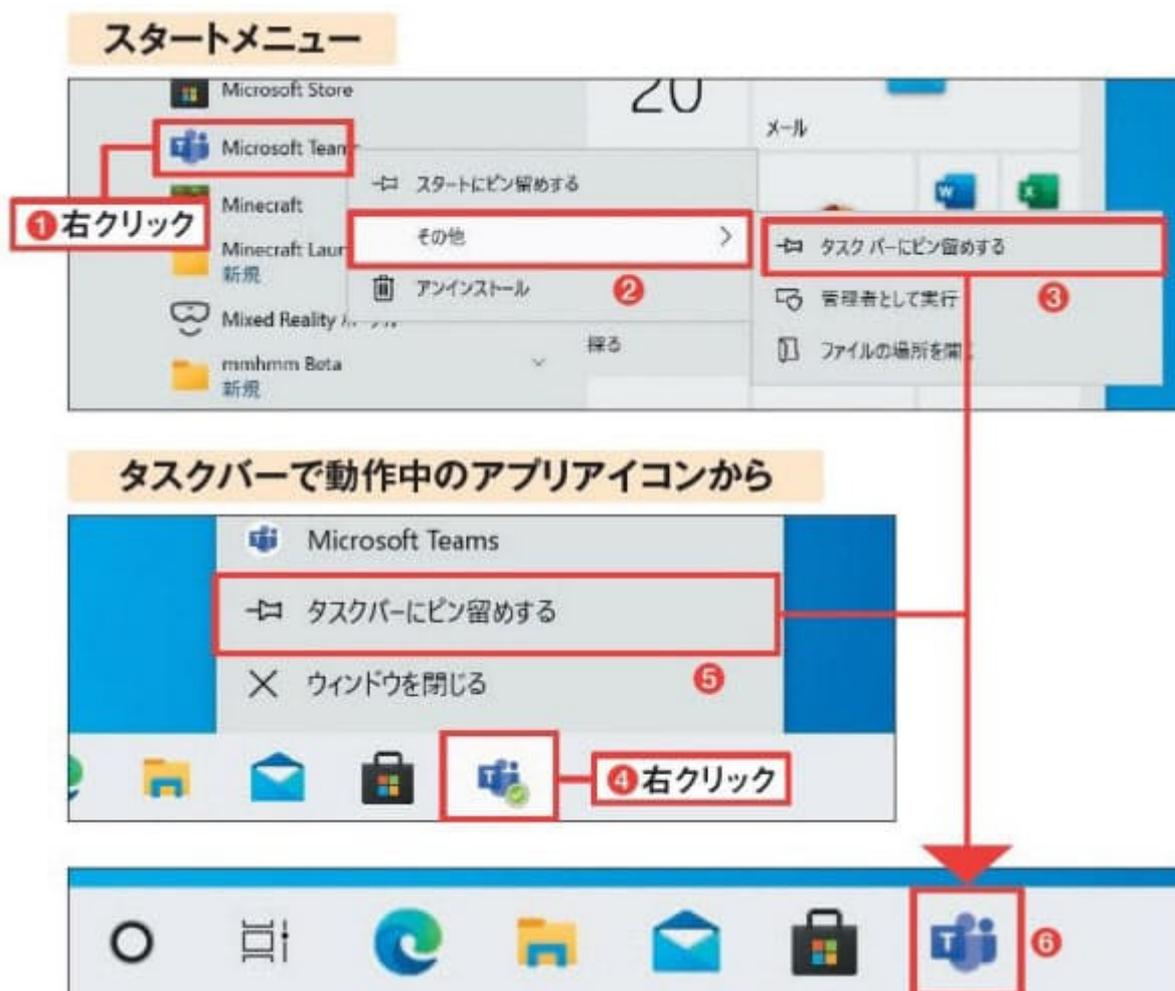


図 8 「スタートメニュー」のアプリ一覧のアプリのアイコンや(1)~(3)、タスクバーで実行中のアプリのアイコンを右クリックし(4)(5)、表示されたメニューから「ピン留め」を行うと、アイコンが追加される(6)

4. ショートカットを作ってピン留め

よく開くフォルダーも同じようにタスクバーにピン留めできれば便利だが、フォルダーを右クリックしても「スタートメニューにピン留めする」という項目があるだけで(図 9)、タスクバーにピン留めできない。

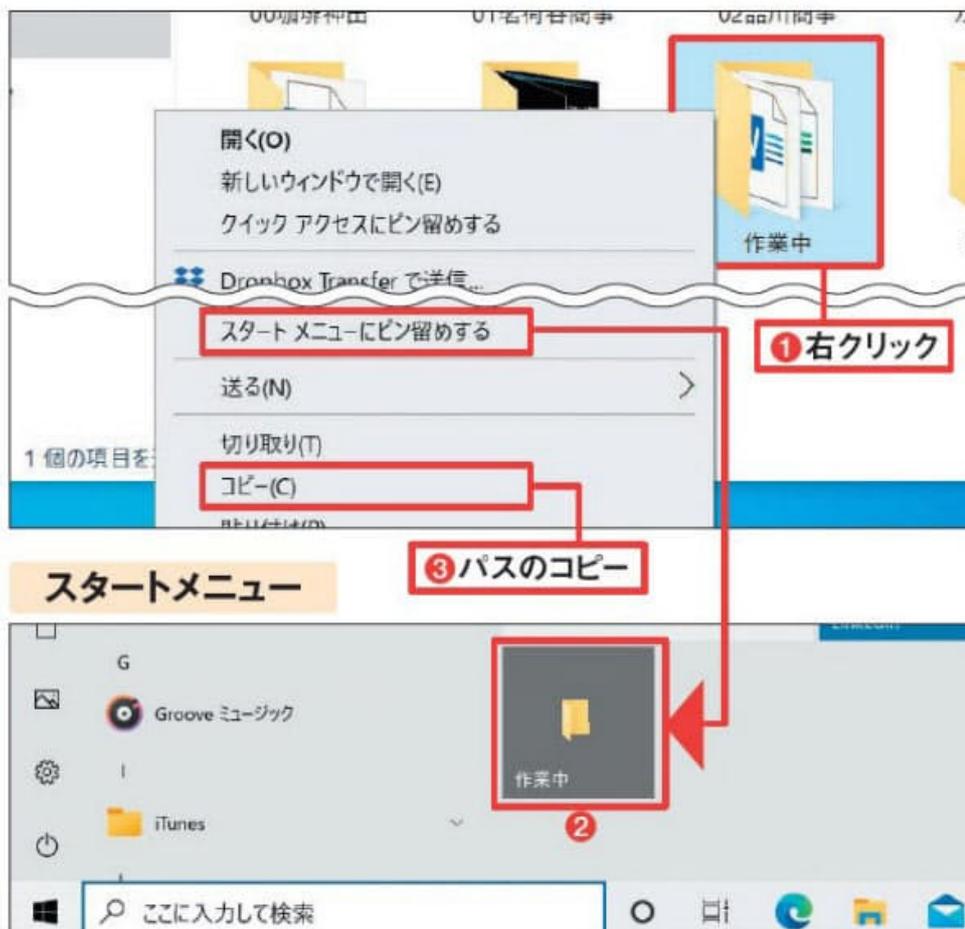


図 9 フォルダを右クリックして表示されるメニューで「スタートメニューにピン留めする」を選ぶと(1)、タイルとして追加される(2)。「コピー」(3)は図 10 の実行前に選ぶ

しかし、「指定したフォルダをエクスプローラーで開く」という命令(コマンド)を実行する「ショートカット」のアイコンを作成すれば、そのアイコンをタスクバーにピン留めして、よく使うフォルダを開くのにも使うことができる(図 10～図 13)。



図 10 タスクバーに置きたいフォルダのパスをコピーしてから(図 9 の(3))、アイコンを選んでいない状態で背景部分を右クリックし(1)、メニューの「新規作成」(2)→「ショートカット」(3)を選ぶ



図 11 「ショートカットの作成」画面の入力欄にコマンド(命令文)を文字入力する(1)。フォルダーのパスを貼り付けると、前後には自動で「”」記号が付く。入力ができたら「次へ」をクリックする(2)



図 12 続けて表示される画面では、ショートカットの名前を入力欄に文字入力する(1)。自分でわかれば何でもよい。入力ができたら「完了」をクリックすると(2)、画面が閉じてショートカットアイコンができる

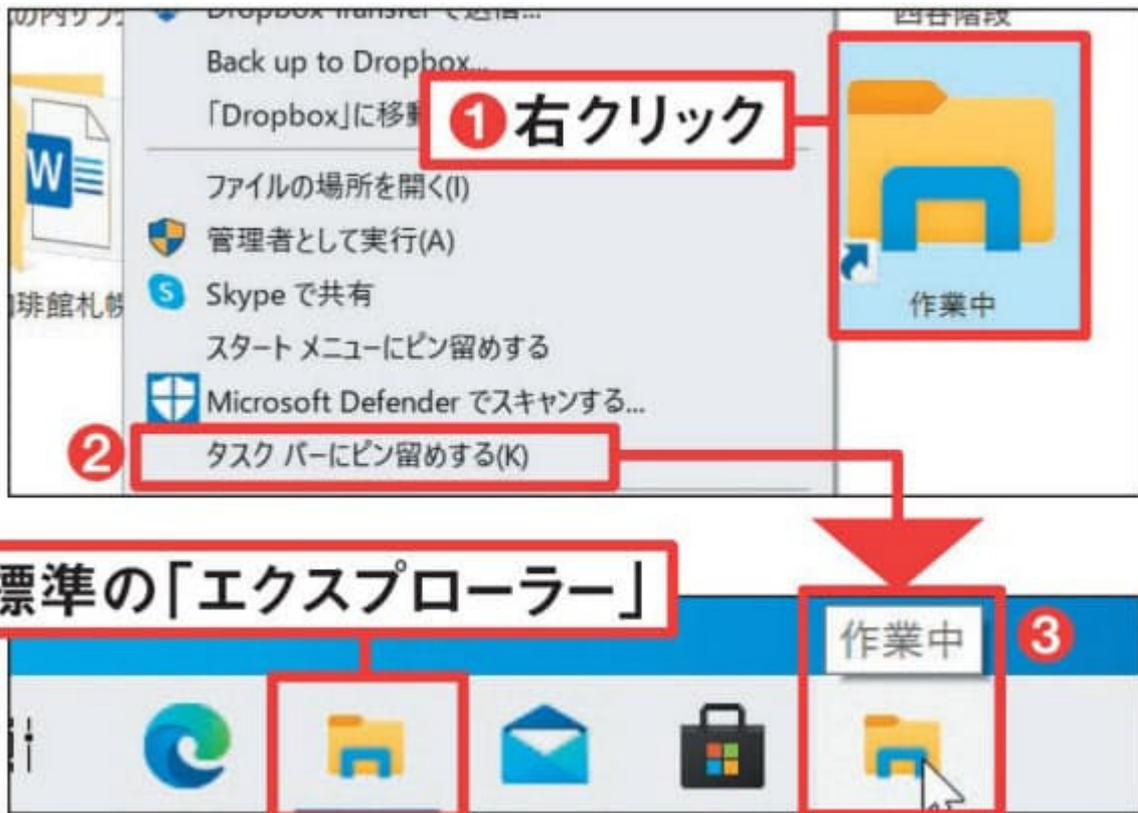
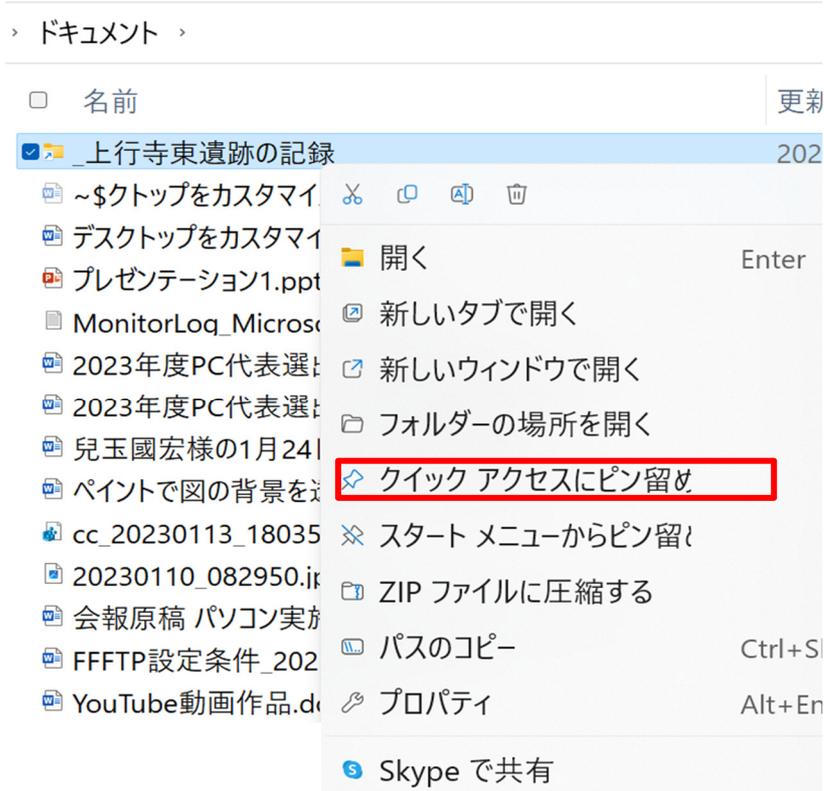


図 13 作成したショートカットアイコンを右クリックし(1)、「タスクバーにピン留めする」を選ぶ(2)。これで、ショートカットで指定してあるフォルダーを開くアイコンがタスクバーに追加される(3)

[「ピン留め」でアプリを即起動:Windows 10 タスクバー 設定・操作はここがポイント | NIKKEI STYLE](#)

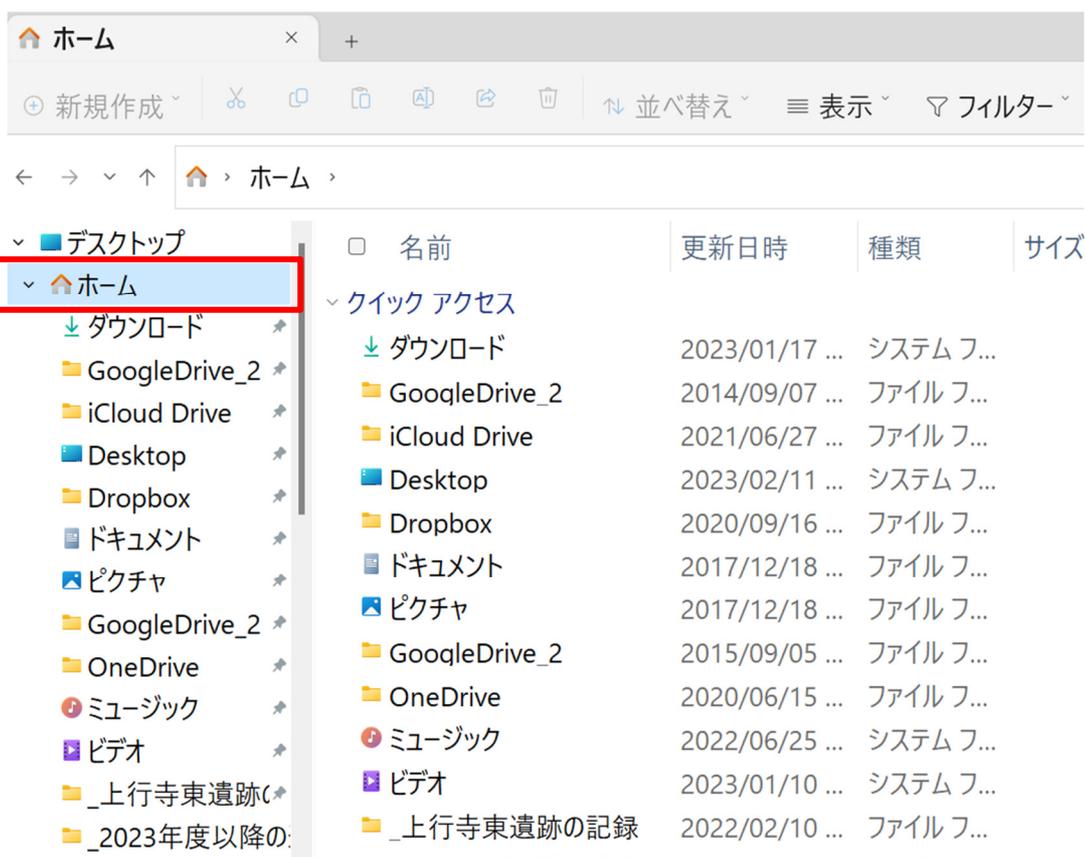
《Windows11》

- ① 作成したショートカットアイコンを右クリックし(1)、「クイックアクセスにピン留めする」を選ぶ(2)。これで、ショートカットで指定してあるフォルダーを開くアイコンが「クイックアクセス」に追加される(3)



《Windows11》

Ver.22H2 では、「クイックアクセス」は「ホーム」になっている。



5. スタートメニューのタイルを整理(Windows11では出来ない)

最後に、「スタートメニュー」の使い方も見直してみよう。

1 つは、スタートメニュー右側に表示されるアプリの「タイル」の整理だ。順番を並べ替えたり(図 14)、フォルダーにまとめたりすることで(図 15)、呼び出しやすくなる。



図 14 「スタートメニュー」のタイルは、ドラッグ・アンド・ドロップで並べ替えが可能。タイルをドラッグするとほかのタイルがずれて空きスペースができるので、それを見ながら配置を決めよう

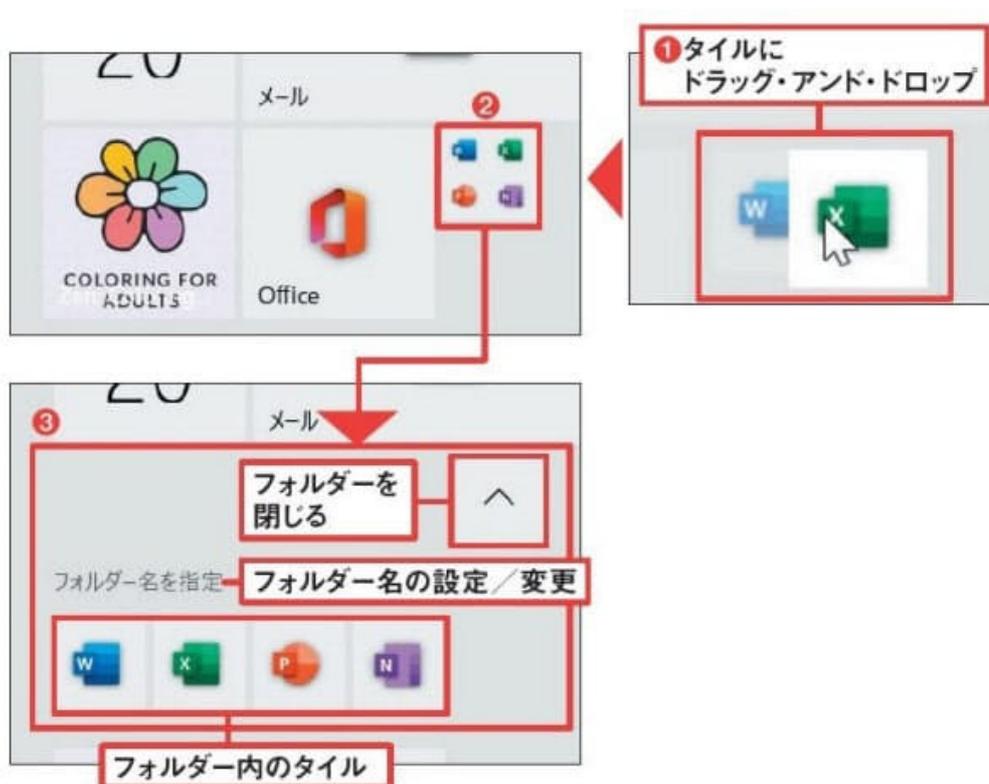


図 15 タイルを別のタイルに重ねるようにドラッグ・アンド・ドロップすると(1)、フォルダーに変わる(2)(2は複数のタイルを移動済みの状態)。フォルダーのタイルをクリックするとその場に展開され、中の項目が選べる状態になる(3)

グループ単位での並べ替えも可能だ(図 16)。タイルのサイズを変えたり、不要なものは「ピン留め」を外して削除したりするのもよい(図 17)。



図 16 グループ化されているタイルの見出し部分をドラッグすると(1)、グループ単位でタイルを入れ替えることができる(2)。ドラッグ中は見出し部分だけが表示されるが、ドロップするとタイルが出てくる

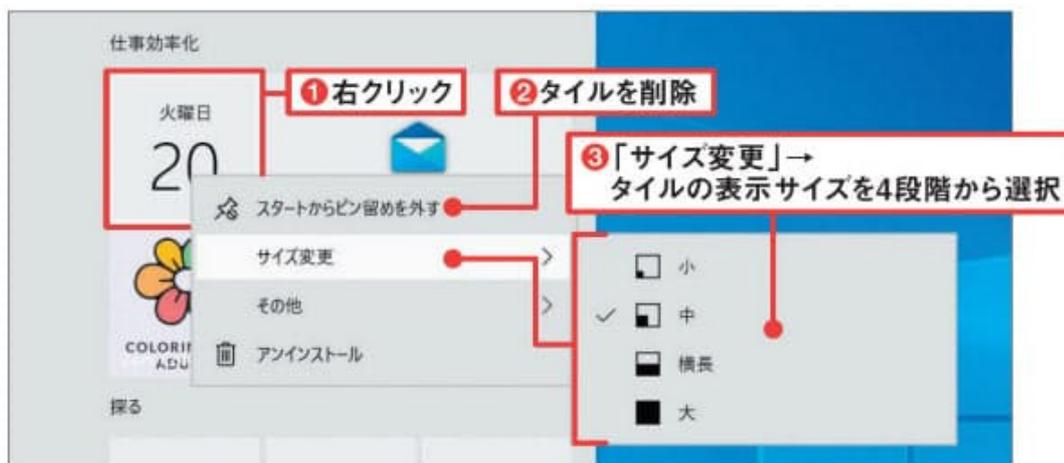


図 17 タイルを右クリックするとメニューが表示され(1)、削除や(2)、大きさの変更などが行える(3)。なお、ストアアプリ以外のタイルは「小」「中」の 2 サイズしか選べず、「横長」「大」は選べない

一方、アプリの一覧では、各アプリが名前順に並んでおり、並べ替えはできない。日本語名のアプリのような、リスト下方の項目を選ぶにはスクロールが必要だ。しかし、見出しの文字をクリックすれば、離れた項目に素早くジャンプできる(図 18)。

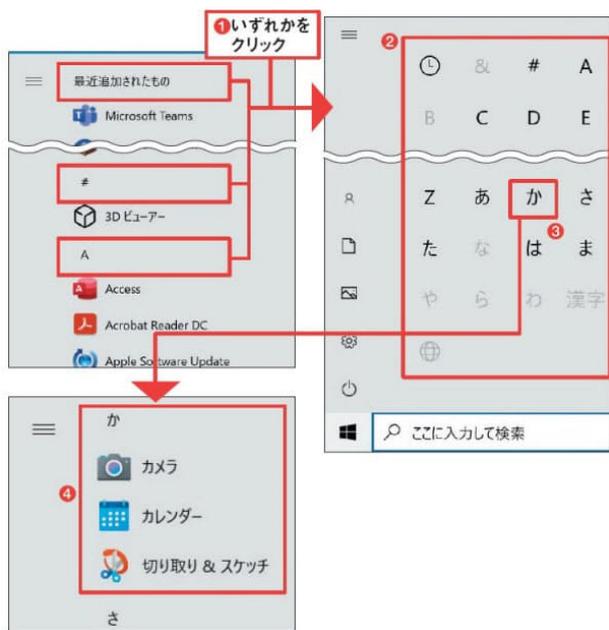


図 18 アプリの一覧を順番にグループ分けしている見出しのいずれかをクリックすると(1)、見出しのみの表示に切り替わる(2)。そこで文字を選ぶと(3)、そのグループの位置に表示をジャンプできる(4)

また、リストの先頭に「最近追加されたもの」や「よく使うアプリ」の項目を追加する設定を行うのも効果的だ(図 19)。



図 19 「個人用設定」(1)の「スタート」(2)でスイッチをオンにすると(3)、アプリ一覧の先頭部分に「最近追加されたもの」(4)や「よく使うアプリ」(5)が表示される。個別にスイッチをオフして非表示にもできる

(ライター 斎藤幾郎)

[スタートメニューのタイルを整理:Windows 10 タスクバー 設定・操作はここがポイント | NIKKEI STYLE](#)

6. 「個人用設定」からカスタマイズ

【『個人用設定』から設定できるカスタマイズ】

- 1 [Windowsキー]+[I (アイ)]で[Windowsの設定]を開く
- 2 [個人用設定]画面から任意のメニューを選択
 - [背景] → デスクトップ背景の変更
 - [テーマ] → デスクトップアイコンの設定
 - [ロック画面] → ロック画面の画像の変更、スクリーンセ이버設定
 - [タスクバー] → 小さいタスクバーボタンに変更

【『簡単操作』から設定できるカスタマイズ】

- 1 [Windowsキー]+[I (アイ)]で[Windowsの設定]を開く
- 2 [簡単操作]を選択
- 3 [ディスプレイ] → 文字を大きくする (任意のフォントサイズに設定)

【『時刻と言語』から設定できるカスタマイズ】

- 1 [Windowsキー]+[I (アイ)]で[Windowsの設定]を開く
- 2 [時刻と言語]を選択
- 3 [日付、時刻、地域の書式設定]-[データ形式を変更する]を選択
 - 任意のデータ形式に設定

[【Windows10】デスクトップをカスタマイズしよう！知っておくと便利な設定を紹介 \(office-doctor.jp\)](https://office-doctor.jp)

7. アイコンのドラッグ・アンド・ドロップでショートカットの追加

- ① タスクバーにはショートカットの登録が可能です。
- ② ショートカットを登録するにはデスクトップやスタートメニューにあるアイコンをドラッグ・アンド・ドロップします。
- ③ アイコンがタスクバーにピン留めされます。
- ④ これにより、タスクバーからアプリケーションを開始できるようになります。

[Windows 10 でタスクバーをカスタマイズする方法 | パソコン工房 NEXMAG \(pc-koubou.jp\)](https://pc-koubou.jp)

以上